

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2572300024
法人名	社会福祉法人 近江ちいろば会
事業所名	グループホーム ぼだいじ
訪問調査日	平成 20 年 3 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 5 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	257230002
法人名	社会福祉法人 近江ちいろば会
事業所名	グループホーム ぼだいじ
所在地	滋賀県湖南市菩提寺327番地16 (電話) 0748-74-4144

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	大津市和邇中浜432番地	平和堂和邇店	2階
訪問調査日	平成 20年 3月 12日	評価確定日	平成 20年 4月 5日

【情報提供票より】(平成 20年 2月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	4月	1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	21 人	常勤	13人, 非常勤	8人, 常勤換算	15.4人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	23,580 円	
敷金	(有) (200,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	3名	要介護2	5名			
要介護3	8名	要介護4	2名			
要介護5		要支援2				
年齢	平均	86.6歳	最低	74歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	生田病院、小川診療所、藤本クリニック、小野歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の社会福祉法人ちいろば会はケアハウス、デイサービス等幅広く高齢者介護事業を展開している。住宅街の端の小高い丘に広大な敷地を有し、その入り口付近に高齢者福祉に造詣深い専門家によって作られた平屋建ての洋室と和室で構成された2ユニットのグループホームがある。あたかも別荘のような雰囲気の中で「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」というキリスト教の精神に基づいて運営されている。併設の福祉施設からも各種ノウハウを取り入れており入居者全員参加の一泊旅行に出かけて新しい体験をしたり、この2年間は職員の退職者が出ていないなど職員のモラル向上にも配慮している。入居者はゆったりとした時間のなかでその人らしい生活をモットーに日々の暮らしを楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘を受けた地域の人達との交流が進んでいないことについては、地域の自治会に入り地域の行事である夏祭りや正月のどんど焼き等、また毎月開催されているお茶の間サロンに参加して顔なじみを作っている。さらに地域の人への勉強会に講師として参加し、地域の人をグループホームへ招待する計画も進行している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が参加して自己評価を行い各自が入居者の日常生活における言葉や行動から介護計画に反映する目標管理(ターゲットプラン)を作成し、本人目標と職場目標を作成する取り組みを開始している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	着実に2カ月毎に開催されておりホーム側が実施する行事計画の説明、地域への溶け込み方、防災への取り組み、ボランティアとの交流、経営内容の報告、自己評価、外部評価の公表をして会議のメンバーから意見を貰い運営に反映している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には毎月利用者の状況を知らせる一筆箋に写真を添えて送り、3カ月毎に広報紙も送っているが、利用者に変化があった場合はすぐに電話連絡をして状況を詳細に説明し、また面会に来られた時も良く説明するなど家族への報告が切れる事がない様にして信頼関係の強化を図っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会で実施される夏祭りに参加したり、毎月行われているお茶の間サロンへ参加して地域の人との交流をしている。また保育園の運動会を参観したり、幼稚園児が歌を歌いに来てくれたり、中学生の職場体験訪問などで気持ちの若返る体験が豊富にある。これからは地域の人により多くホームに来てもらい交流を一層深められる事を期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」というキリスト教精神のもと、住み慣れた地域でより家庭環境に近い共同生活を提供し、その人らしくできるだけ自主的な生活を送ってもらえる理念が出来ている。		地域密着の考え方に基づいた立派な運営が行なわれ成果を挙げているが、外部の人にも更に理解と協力を得られるよう地域密着の趣旨を織り込んだ副題的表現の追記を検討して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝会で理念を唱和し日々認識を新たにして業務に取り組んでおり、事務所内にも理念を掲げ職員会議でも取り組みを話し合っている。	○	今後更に多くの地域訪問者に来てもらい理念を理解して貰うために玄関にも掲示し、また理念をカードにして職員は常に身につけ何時でも見られるようにすると共に現在使用している書類の余白に記入することなども検討して欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入り、夏祭り行事に参加したり毎月行われるお茶の間サロンに寄せて貰っており、幼稚園児、保育園児、小学生の訪問を受け子供との交流もしながら地域に溶け込んだ生活をしている。又大学その他の機関から実習生の受け入れ依頼がありこれに応じている。		地域に出かけるのと同様にホームにも来て貰える様にホームでのお茶の間サロンの開催を望みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い外部評価の結果は全て開示している。職員全員が目標管理(ターゲットプラン)を作成して取り組みが行われてサービスの質の向上に努めている。		毎月の全体会議で取り組み状況を検討することが習慣となることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは利用者、利用者家族、地域住民代表者、地域包括支援センター、ホーム幹部で構成され隔月に開催し現状の報告を基に意見やアイデアを貰い運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは毎月介護相談員2名の来所があり、定例的に情報の交換を行い、市の協力も得ながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月暮らしぶりを記したものと写真を送っており広報誌も3カ月毎に送っている。入居者の体調に変化があった時はこまめに電話連絡をして安心して貰い、又家族の来所時に報告している。		家族の方々は世間のニュースで職員の退職異動は当然のことと思っているので、職員が代わっていない事もそれとなく連絡される事を望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で意見やアイデアを貰い、家族が訪問した時に意見や苦情を聞きだす努力をしている。重要事項説明書には内部及び外部の苦情窓口を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで2年間は職員の退職による異動は無かったが、異動する場合は新旧職員が2カ月間の引継ぎ期間をもち利用者への影響が出ないように配慮している。上司の適切な指導、職員のチームワークの良さ、互いに相談しながら同じ目標に向かって努力する雰囲気定着を良くしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では社会福祉協議会等が主催する研修会に参加して勉強してきた職員が全体会議の席上で発表している。研修費も補助されて参加しやすい様に配慮している。又内部の研修も有り人材育成に熱心に取り組む、職員が自ら考えたことを実行し職員の能力も向上している。		職員個人別年間育成計画表に基づいて内部、外部研修を受けることにより職員の能力向上を達成してゆく計画を着実に推進して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖南省のグループホームで「ほほえみネット湖南」を結成して2カ月毎に各事業所に勉強に行きお互いの良い点を学んで取り入れ質的向上に取り組んでいる。又合同運動会を開催して利用者のお互いの親睦と能力アップを計っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族を交えて話し合いをしてフェイスシートを作成し生活状況を掴み、ホームに2～3度来所して充分雰囲気馴染んで貰い職員ともなじみの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りにおいては利用者の得意な煮物料理の作り方やミソの作り方を一緒に作りながら教えて貰い、人生の先輩としての尊敬と感謝の気持ちが自然に伝えられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との話し合いから望んでいるカラオケに行ったり音楽会に参加したりしている。今回、ある事情で生まれ故郷が見たいという利用者の希望を受けて、職員が付き添って神戸須磨に案内し本人の希望実現に努力した事例もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はカンファレンス等で意見やアイデアを出し、家族と本人と話し合いその思いを反映して作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを持ち介護計画の見直しを行って変化が認められる場合はその都度家族と本人を交えて話し合い変更している。	○	利用者に変化が生じた場合、実際のケアは変更されているが介護計画書の変更は6カ月毎になっている。3カ月毎に定期的に変更される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算事業所として健康管理面では安心して任せられる環境にあり、家族の要請によりかかりつけ病院への送迎も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行となっているが、家族の要請があれば職員が同行している。協力医院には24時間の連絡体制を取って貰っている。また定期診断は検診バスが来所して行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を採っており入居前に重要事項説明書に於いて医療の看取りに関する指針に基づいて説明をしている。本人、家族が看取りを希望される時はよく相談した後、終末期についての同意書を取り交わし終末期ケアを実施する。		家族の思いは利用者が重度化し終末期が近づくとコロコロ変わる為、繰り返し話し合い確認して考え方を共有することが重要で話し合いを多く持ち記録に留めることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はやさしい言葉かけやさりげない排泄の介助を徹底している。個人情報とは運営規程において個人情報に関する基本方針、個人情報の利用目的、個人情報利用同意書があり記録はロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを守りながら散歩、買い物、縫い物、編み物、料理、洗濯、畑作業等、希望に合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の食材はケアハウスから供給されているが、そのうち週に1回は食材の買い物に出かけ調理を職員と共に行い楽しく食事をして後片付けも一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や回数は本人の希望に添うよう配慮している。入浴が嫌いだった利用者を外の温泉に連れて行くことにより風呂が好きになった、等の努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の能力を発揮して貰うようにケアハウスの歌の会への参加や散歩、庭の手入れ、畑作り、裁縫等、一緒に楽しめる提案をして利用者の笑いが絶えない努力をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時は近所の散歩、スーパーへの買い物、花を見にドライブにと体調に合わせて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、朝8時から晩8時まで玄関の鍵はかけていない。職員は毎日、入居者のしたいことの希望を聞いて、外に行きたい人は職員と共に散歩をするなど入居者の見守りに徹している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを整備し避難通路も確保されている。避難訓練は年に2回実施しており、その内1回は消防署も来て講評を貰っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランスのとれた献立が提供されており、食事摂取量や水分摂取量も把握され記録シートに記入している。		食事やおやつにはコップでお茶が添えられ、現在水分摂取量はコップ何杯で把握し記録されているが、記録シートには水分摂取量を何CCで明記される事を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間、食堂が一体となり家庭的な雰囲気であり、雛人形、5月人形、七夕と季節に合わせた飾りつけをしている。又建物の中庭と外の花壇には四季の花を植えて季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れたタンス、ベッド、机等を持って来て貰い、家族の写真や自分の好みの写真を飾ったり花を飾ったりと家庭と同じ雰囲気で居心地良く過ごせるよう配慮している。		